

キバナクロユリ

植物写真家 宮 誠而



深田久弥は白山の頂で、「私のふるさとの山は白山であった」と記している。久弥は石川県加賀市大聖寺生まれ。そして、隣の福井中学に通った。ここで山と出会うことになる。

私が久弥のことを知ったのは福井の大学時代。たまたま寮の同室になった者がワンダーフォーゲル部。福井県の山のガイドブックを作ったので進呈するという。休みのたびに県内の山に出かけるので一緒に行くこととなった。次第に私も山の魅力に取り憑かれ、5万分の1の地図を何枚も買ってきて、ひとりでも登るようになった。大学時代、ガイドブッ

クに掲載されていた全ての山を登った。そして、地図に登頂記録を書き込み、埋まっていくのが楽しみだった。

同室の者と一緒に登り始めた翌年、彼が悲痛な声で言った。「深田久弥が亡くなった」と。事情がよく解らないので訪ねると、日本百名山で知られた登山家が亡くなったのだという。山梨県の茅ヶ岳の山頂直下で脳卒中で倒れ、六十八歳の若さだった。「お前も石川県の出身でないか、知らなかったか？」深田久弥と同じ県人であることを初めて知った。

東京に就職し、事情があつて帰省。故郷を再発見する仕事を始めた。地

元の山のガイドブックを発刊すると見事ヒット。勢いに乗って白山の写真集を発刊。その後、白山の高山植物を発刊しようと取材を開始。このころ、白山の花といえばクロユリであったが、真黄色のものがあるというので、山頂周辺を2日ばかりで探索した。ようやく見つけたキバナクロユリである。

図らずも大聖寺近くの町に住むこととなった。大聖寺には「深田久弥山の文化館」がある。少し関わることになったのも、何かの縁であろうか。ご縁があまりに多いことに運命を感じて、少しばかりの原稿を書くことにした。

